

平成 29 年度 研究成果報告書

Research Achievement Report FY2017

| | |
|----------------------------------|------------------|
| 講座名・職名 Course Title・Job Title | アジア・アフリカ講座 教授 |
| 氏名 Name | 米田信子 |
| 専門分野 Academic Field | 言語学、バントゥ諸語 |

| | |
|---|---|
| 主たる研究テーマ Principal Research Subject | ①バントゥ諸語の形態統語論的マイクロバリエーション ②バントゥ諸語の対照研究 |
| <p>①バントゥ諸語の形態統語論的マイクロバリエーション</p> <p>昨年度に引き続き、科研プロジェクト「バントゥ諸語における従属節の形式と意味に関する比較研究」を中心に研究を行った。名詞修飾節に関しては、ガンダ語、フィパ語、ヤオ語、ケレウェ語のデータを新たに収集し、これまでのデータと合わせて学会発表と論文執筆（2018年度出版予定）。</p> <p>今年度はバントゥ諸語の形態統語論的マイクロバリエーションに関して海外の研究者と 3 つの共同研究を進めてきた。</p> <p>— 10月から3か月間ロンドン大学 SOAS から JSPS ポスドク研究員を受入れ、集中的に共同研究を行った。共同執筆した論文 <i>Functions of verb reduplication and verb doubling in Swahili</i> は 2018 年に出版される <i>The Journal of Asian and African Studies</i> に掲載される。現在は条件節に関する論文を共同執筆中である。</p> <p>— 昨年度から引き続き行っているマケレレ大学の研究者とのガンダ語の多重目的語構文に関する共同研究は、学会発表を行い、論文にまとめたものをジャーナルに投稿した（採択済み）。また来年度の国際学会での発表にも応募し、現在、発表準備を進めている。</p> <p>— ベルリン・フンボルト大学の研究者とはバントゥ諸語のプロパティに関するマイクロバリエーション研究をスタートさせた。これはまだ形にはなっていないが、データを収集している。</p> <p>②バントゥ諸語の対照研究</p> <p>国立国語研究所の共同研究員として、日本語を始めとする諸言語とバントゥ諸語との対照研究のプロジェクトを行った。今年度の主なものとしては「とりたて表現」に関する研究で、ヘレロ語のとりたて表現、スワヒリ語のとりたて表現に関して研究会で発表した他、論文にまとめた。また来年度の国際学会での発表にも同テーマで応募し、現在、発表準備を進めている。節連結に関する対照研究の成果として、論文集が出版され、ヘレロ語の節連結の論文が掲載された。（“Levels in Clause Linkage: A crosslinguistic survey.” Tsunoda Tasaku (ed.) Berlin: de Gruyter Mouton. pp.791-846, 2018 Feb）。</p> | |